# 奈良須池（ならずいけ）

位　置　図

諸　　元

| | | |
|---|---|---|
| 貯　水　量 | 1,457.7 | 千$m^3$ |
| 満 水 面 積 | 28.3 | ha |
| 受 益 面 積 | 285.1 | ha |
| 堤　　高 | 13.2 | m |
| 堤　　長 | 520 | m |

奈良須池は、高松市西部に位置し琴電岡本駅の背後にある池で、「琵琶湖八景を彷彿させる景観」とたたえられたほどの美しさを誇っています。

江戸時代の奈良須池の地には、当時 4 個の小池がありましたが、かんがい面積は狭く、日照りのたびに干ばつに悩まされていました。そこで、寛文 8 年（1668 年）の大干ばつを機に、山崎村(現高松市西山崎町)の御蔵奉行前田与三兵衛が、ため池の築造を計画しました。

与三兵衛は、4 個の小池を統合して、香東川から導水する計画を立てました。この地域では古くからたびたび大池築造が計画されましたが、そのつど困難にあって完成することができず、「不成（ならず)」と呼ばれるほどでした。無事完成した池は、当時の大池番付満濃太郎・神内次郎・三谷三郎に次ぐ大池となり、「奈良須四郎」として付け加えられました。

昭和に入ってからは、長距離にわたる導水路沿いの農民との水利紛争や、老朽による堤体からの漏水により、大きな器を持ちながらも満水させることが難しい池といわれました。

その後、この地域の水利紛争は、昭和 28 年（1953 年）の内場池の完成と昭和 49 年（1974 年）に香川用水が通水したことによって、根本的に解決しました。また、老朽化した堤体と取水設備は、大規模老朽ため池事業で全面改修工事を行い、昭和 52 年（1977 年）に完成しました。

かつて琵琶湖八景とたたえられた周辺は、小公園やゴルフの練習場が整備され、住宅も立ち並ぶようになりましたが、昔とは趣を変えながらも風情のある景観を残しています。

琵琶湖八景に似た景観